

1. 高度医療人キャリア形成教育研究推進プログラム

事業参画大学間の連携プログラムとして実施したものには【連携】を付した。各プログラムの成果については、実施大学のホームページ等に詳細が記載されている。なお、プログラム名に（*）を付したものについては別添の資料が提出されている。これらについては、本事業のホームページの資料あるいは各実施大学のホームページ等でご参照いただきたい。また、参画大学からの事業報告の中で、本事業の主な5つのアドバンスト教育研究プログラムとしても報告があるものについては、プログラム名と簡単な概要を取り上げた。

【2018年（平成30年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<北海道大学>

○ 高度長期課題研究：「高齢者にける腎機能推定式の補正」

- ・大学院生の研究として、クレアチニンクリアランスを用いる腎機能推算式では予測精度が良くない高齢者での精度向上を目指して、補正推算式を得ることを目的として高齢化の進んだ地域の中核病院との共同研究を行った。
- ・その成果を英文学術雑誌に公表した。

<千葉大学>

○ 病院実務実習における専門職連携実習（亥鼻IPE・Step5）（2015年度開始）（*）

- ・学部生を対象として、附属病院での病院実務実習のアドバンスト教育として、同時期に臨床実習を行っている医学部・看護学部学生との病棟での診療参加型専門職連携実習を約3日間各診療科で実施した。

<富山大学>

○ 「薬学経済」（*）

- ・学部生、大学院生を対象として、薬学経済をテーマに、本学卒業生の中からさまざまな職種にて活躍している方々が講義した。

◇ 履修学生：学部生・大学院生 70名

○ 業界説明会（*）

- ・学部生、大学院生を対象として、薬系卒業の進路として可能性のある業種について説明会を実施した。

◇ 履修学生：学部生・大学院生 約100名

<静岡県立大学>

- 多職種連携演習（IPE教育）
 - ・学部生を対象として、静岡県立総合病院・静岡済生会病院と協力し、薬学部・看護学部・食品栄養科学部が連携した多職種連携演習を行った。
- 地域防災演習
 - ・学部生を対象として、COC事業の一環で静岡地震防災センター及び静岡県立大学にて薬学部と看護学部との合同で防災種連携演習を実施した。
 - ・ふじのくに防災マイスター養成講座を受講し、ふじのくに防災マイスターを取得することができる。次年度からは必修とする予定である。
- 防災講習会
 - ・学部生を対象として、地域防災演習を受講しふじのくに防災マイスターの資格のある学生が高校生の防災意識を高めるために、防災に関する講演や避難所のシミュレーションゲームなどを行った。
- 静岡県薬事課研修プログラム
 - ・静岡県薬事課の協力により、薬事行政・GMP監視業務に関する研修を実施した。
- 静岡救命連携演習
 - ・学部生を対象として、BLSプロバイダーコースを学内で開催し、医療者として必要な1次救命処置を身に付け、国際的資格を取得するための演習を実施した。次年度からは必修とする予定である。
- AED講習会
 - ・学部生を対象として、早期体験学習及び静岡救命連携演習の発展カリキュラムとして、高校生や地域の方を対象にAED講習会を実施した。静岡救命連携演習でBLSの資格を取得した学生と教員により指導を行った。
- 大学院特別講義
 - ・大学院生を対象として、年3回、学外の著名な研究者を招聘して研究の最前線に関する講義を開講した。
- 月例セミナー
 - ・学部生及び大学院生を対象として、年9回、学外の著名な研究者を招聘して研究の最前線に関する講義を開講した。
- 静岡県立大学薬学部・病院・地域薬局連携薬物療法研修会
 - ・現場薬剤師、大学院生及び学部生を対象に、年8回、処方医などから薬物療法の実践的内容及び処方意図を学習する研修会を開催した。

<名古屋市立大学>

- 改訂コアカリに対応した新しい医療人教育手法の開発（*）
 - ・改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムへの対応として、臨床準備教育を見直し、新しいより効果的な薬剤師の実践臨床能力開発の研修を試みた。
- 岐阜薬科大学 薬学生に必要な経営戦略マネジメントワークショップ【連携】
 - ・学部生を対象として、岐阜薬科大学が企画した医療経営戦略の専門家を招聘しての

2日間にわたる研修に本学から薬学部4年生1名、5年生2名が参加し、参加した学生や教員、講師と情報交換を積極的に行った。

○ 静岡県立大学 薬事研修プログラム **【連携】**

- ・静岡県立大学が企画した薬事研修プログラムにおいて、静岡県薬事課の協力により、多くの製薬関連工場がある静岡県の特徴を活かしたレギュラトリーサイエンスに関する研修プログラムを実施した。

◇ 参加人数：5年生1名

<岐阜薬科大学>

○ 薬学生に必要な経営戦略とマネジメント

- ・学部生を対象として、薬学生に必要な経営戦略とマネジメントを学習するプログラムの構築を図った。

<京都大学>

○ 多職種連携プログラム

- ・1年次生を対象として、夏季休暇中に多職種連携医療体験実習を実施した。

◇ 参加人数：薬学部38名、医学部医学科109名、医学部人間健康科学科8名

- ・4年次生を対象として、後期集中講義として「医療安全学」を開講し、医学部の学生と合同で、医療者間コミュニケーション、患者とのコミュニケーション、医療事故の分析についてSGDを行うことで、医療人として必要な医療安全に関する理解・関心を深めた。

◇ 参加人数：薬学部24名、医学部110名

- ・1年次生を対象として、夏季休暇中に医学部の学生と合同で1週間関連病院にて実習を行った。実習終了後に事後ワークショップを行い、チーム医療の重要性を学習した。
- ・4年次生を対象として、医学部の学生と合同で、医療者間コミュニケーション、患者とのコミュニケーション、医療事故の分析についてSGDを行うことで、医療人として必要な医療安全に関する理解・関心を深めた。

<岡山大学>

○ 全国学生ワークショップ **(*)**

- ・全国学生ワークショップに学部代表の6年次生1名が参加し、「6年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと～将来への想いを共有しよう～」というテーマで、全国の薬学部・薬科大学学生が参加して2日間にわたる議論を行った。

○ 高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発 学生ワークショップ (主幹校主催プログラム) **【連携】**

- ・国公立大学薬学部卒業生が目指すべき人物像を設定し、これをもとにディプロマ・ポリシーとそれを達成するための教育を考え、あるべきカリキュラムマップを作成

した。

◇ 参加人数：5年次生2名、卒業生1名、教員1名

○ 厚生労働省及びPMDA見学会（主幹校主催プログラム）【連携】（*）

・学部生及び大学院生を対象として、厚生労働省及びPMDAに将来の進路として、もしくはその業務に興味がある学生に薬事行政の現場を見学する機会を提供し、学生の薬事行政への関心を高めることを目的として企画・実施された。

◇ 参加人数：5年次生4名

○ 研究者教員キャリア形成見学・合宿研修【本事業の2019年度学生自主研修プログラムとして採択】（*）

・3年次生を対象として、研究者を目指す人材のキャリア形成を促進するために、研究機関及び製薬企業の見学と、本学薬学系教員による学生との合宿討論を実施した。
・幅広い「知」を備えた研究型薬剤師（Pharmacist-Scientist）や企業研究者・開発者の育成を目的として、薬学生が製薬企業や研究所における業務の実情や薬学系教員のキャリアパスを学ぶ研修セミナーを実施した。
・若手教員による研究・教育歴の紹介とディスカッションにより、参加学生が自らのキャリアパスにおける将来像を描く機会となった。

◇ 参加人数：3年次生26名、4年次生1名、大学院生1名、教員3名

○ 微研財団観音寺研究所及び理化学研究所神戸事業所の見学会（主幹校主催プログラム）【連携】（*）

・学部生及び大学院生を対象として、微研財団及び理化学研究所（神戸）に将来の進路として、もしくはその業務に興味がある学生に対して、最先端の創薬研究及び生物科学研究が行われている研究所を見学する機会を提供し、学生の研究意欲及び創薬への関心を高め、先導的な研究者養成につなげることを目的として企画・実施された。

◇ 参加人数：4年次生1名、5年次生1名

<広島大学>

○ 患者志向型合宿勉強会

・学部3年生を対象として、医療人としての倫理観を醸成するために、薬害被害者7名を招聘し、一泊二日での合宿型勉強会を開催した。

○ キャリアセミナー

・学部生及び大学院生を対象として、薬学出身者の多様な進路を紹介するために、企業、行政、病院、薬局など幅広い分野の方をお招きしての講演会、企業ブースや展示、就職相談会、情報交換会を3日間開催した。

○ 手術室見学実習

・学部生を対象として、手術室における薬剤師業務を知るために、麻酔科教授ならびに手術室担当薬剤師による講義を受けた後に、実際に手術室に入り、その業務を見学した。

○ 精神科外来実習

- ・学部生を対象として、医師による診断から処方箋作成への流れを知るために、精神科外来診療室での診療への陪席し、必要に応じて医師からの指示による説明書の作成と患者への説明を行い、また精神科入院病棟での担当薬剤師に付き添い、入院時の服薬指導などを体験する実習を行った。

<徳島大学>

○ 第12回「チーム医療入門」 蔵本地区1年生 合同ワークショップ (*)

- ・薬学部、医学部、歯学部の1年生を対象として、「地域包括ケアの実現」というテーマで合同ワークショップを実施した。

○ 第6回学部連携PBLチュートリアル (*)

- ・高学年の薬学部、医学部、歯学部の学生を対象として、チーム医療の実践に必要な能力・資質を身につけさせることを目的として、患者シナリオをもとにグループ討議と自己学習を行いながら問題点を抽出し、プロブレムマッピング方式を用いて全人的な視点から問題点の解決法を立案するPBLチュートリアルを実施した。

○ 平成30年度 症例解析総合演習 (*)

- ・薬学部6年生を対象として、薬剤師に必要とされる基本的な臨床思考プロセスの修得を目的として、薬学部で履修してきたコアカリキュラム及び臨床実務実習での知識・経験を統合し、模擬症例で設定された課題を薬学的視点から検討する演習を実施した。

<熊本大学>

○ メディポリス国際陽子線治療センター研修 (*)

- ・参画大学連携プログラムとして、メディポリス国際陽子線治療センターの見学、所長及び関連研究者の講演を聞く研修を実施した。

2) その他 (大学としての取組等)

<東北大学>

○ スーパージェネラリスト・ファーマシストの養成教育事業

- ・医療の質の向上及び医療安全の確保の観点から、チーム医療において薬剤の専門化として主体的に薬物治療に参画し貢献できる薬剤師を養成するための教育プログラムを構築し、実施した。

<http://www.pharm.tohoku.ac.jp/~gankagak/super-generalist/index.html>

<金沢大学>

○ 金沢大学薬学シンポジウム

- ・研究者養成の道筋を堅持すべく、教員の教育・研究活動を活性化するため度有機・

天然物系、生物系、代謝・動態系、物理・分析・衛生系の4研究分野のシンポジウムを各々毎年開催し、医薬保健研究域薬学系の研究レベルの更なる向上を目指す。

- ・初年度シンポジウムは「金沢大学薬学シンポジウム2010」として、継続的に開催した。

○ 新たな研究領域を開拓できる次世代薬学研究者の養成

- ・本学の部局研究力強化型の研究プロジェクトの「先魁プロジェクト：研究領域間融合と研究教育の融合を目指した拠点形成による金沢薬学ブランドの創出」や「新学術創成研究機構ユニット革新的バイオコア・創薬分子プローブユニット」のプロジェクトを発展展開した。
- ・複数研究室での研究活動を通して変化する学問的な要請に対応し問題に果敢に挑戦でき、研究領域横断的な視点と高度な問題解決能力を有する人材の育成を図った。

<名古屋市立大学>

○ 東海薬剤師生涯学習センタープログラム 公立大学連携薬剤師生涯学習講座 **【連携】**
(*)

- ・静岡県立大学と共同で大学が発進する薬剤師職能開発支援向けの研修を実施した（2015年度から開催を継続）。本学学部学生、大学院生も参加（薬剤師受講は有料、学生・大学院生は無料）。
- ・全9回のうち、研修4回は静岡県立大学とTV会議システムを利用した講義とし、5回は本学独自の「薬剤師レベルアップ研修」として3時間の実習・演習タイプの研修を実施した。
- ・本年度より、薬学部3年次生の授業の一部に受講した薬剤師と一緒に演習を行うプログラムを3回導入し、学生は薬剤師としての生涯研鑽の重要性を理解するとともに、参加薬剤師は、新しい学習方法の体験とその効果を実感できるプログラムとした。

◇ 2018年度参加者：薬剤師114名、学部学生107名（延べ）

<岐阜薬科大学>

○ ルーブリック評価に伴う学生管理システム

- ・学生評価全体に関するルーブリック評価に伴う学生管理システムの構築を図った。

<岡山大学>

○ 高度先導的薬剤師養成プログラム講演会3 **(*)**

- ・「次世代の薬剤師と障害学習及び薬剤師認定制度認証機構の役割」と題した公開講演会を開催した。
- ・薬剤師認定制度認証機構代表理事の講演により、次世代の薬剤師に求められる資質や生涯学習及び薬剤師認定制度認証機構の役割が紹介され、参加者による討論が行われた。

◇ 参加人数：学生17名、教員9名、薬剤師2名

<九州大学>

○ シンポジウム「アドバンスト教育研究プログラムのグローバルな展開」 **【連携】**

- ・九州地区の国立大学法人3大学（九州大学、熊本大学、長崎大学）合同シンポジウムを開催（担当校：熊本大学）した。
- ・九州大学の取組について担当教員から紹介した後、本学の薬学部臨床薬学科6年次生2名が「九州大学薬学部臨床薬学科における国際研修；台湾短期留学プログラム」、「地域薬剤師会との共同事業；アドヒアランス向上を目指した節薬バッグ運動」というタイトルで発表した。
- ・各大学の海外研修や地域における取り組みについて情報共有を行い、本事業の発展と、高度先導的薬剤師の養成に向けて活発な議論を行った。